

行政事業レビューシート (環境省)

<b>事業名</b>	途上国の森林に係る削減・吸収量の測定事業		<b>担当部局</b>	地球環境局		<b>作成責任者</b>	
<b>事業開始・終了(予定)年度</b>	平成16年度・(終了予定なし)		<b>担当課室</b>	総務課研究調査室		室長 松澤 裕	
<b>会計区分</b>	一般会計		<b>施策名</b>	9-3 環境問題に関する調査・研究・技術開発			
<b>根拠法令</b> (具体的な条項も記載)	-		<b>関係する計画、通知等</b>	京都議定書目標達成計画			
<b>事業の目的</b> (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	「いぶき」後継機の開発を目指す。その中で併せて、将来的なクレジット化、我が国の中長期目標達成への活用を視野に入れて、REDDプラス活動の温室効果ガス削減・吸収効果を定量的・客観的に把握する観測システムを開発する。						
<b>事業概要</b> (5行程度以内。別添可)	「いぶき」後継機をはじめとする観測技術、モデリング技術を設計、開発するとともに、既存の技術と「いぶき」のデータ活用を始めとする人工衛星、地上等での直接観測技術及びモデリング技術を組み合わせて、森林インベントリを補完・検証する技術システムを開発する。						
<b>実施方法</b>	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
<b>予算額・執行額</b> (単位:百万円)	予算の状況	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
		当初予算	79	55	39	274	120
		補正予算	-	-	-	-	-
		繰越し等	-	-	-	-	-
	計	79	55	39	274	120	
	執行額	79	55	39	-	-	
執行率(%)	100%	100%	100%	-	-		
<b>成果目標及び成果実績</b> (アウトカム)	成果指標		単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (年度)
	成果実績			-	-	-	-
本事業は観測センサーの精度確認、打ち上げ後のデータ取得、検証と多岐にわたり、これらの事業の成果を定量的な指標で評価することは困難。		達成度	%	-	-	-	-
<b>活動指標及び活動実績</b> (アウトプット)	活動指標		単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	活動実績 (当初見込み)			-	-	-	-
本事業は観測センサーの精度確認、打ち上げ後のデータ取得、検証と多岐にわたり、これらの事業の実績を定量的な指標で評価することは困難。				-	-	-	( - )
<b>単位当たりコスト</b>	(円/ )		算出根拠	単位当たりのコストを算出することは困難			
平成23・24年度予算内訳	<b>費目</b>	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由			
	公害調査費	274	120	本事項は、平成23年度「途上国の森林に係る削減・吸収量の測定事業」のうち、GOSAT現行機の運用に関する部分を残したものであり、その他GOSAT後継機に係る開発部分については、要望枠で一括して計上することとしたため、減額となっている。			
	計	274	120				

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	H23組替、拡充
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	-	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	H23組替、拡充
	-	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	H23組替、拡充
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	○	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>「いぶき」による全球の二酸化炭素、メタン濃度分布観測は、世界の最前線であり、日本がこの全球観測体制を宇宙基本計画に沿って継続するか否かは世界も注目している。将来の衛星による経常的観測を目指し、「いぶき」後継機の開発を行う。REDD+に対する各国の注目は高まりつつあり、我が国独自の吸収・排出量測定技術を確保しておく必要があり、平成27年度に観測システムプロトタイプの完成を目指して、今後も引き続き予算要求を行う。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
現状通り	引き続き効率的な事業実施に努めること		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			

※平成22年度実績を記入

環境省  
39百万円

平成22年度地球温暖化分野の各種モニタリング推進強化に関する調査委託業務  
【内容】気候変動モニタリング・評価ネットワークを構築するため、地球温暖化観測に必要な基盤技術の開発等を行うこと

【企画競争/委託】

A. (独)国立環境研究所  
39百万円

【業務内容】  
・温室効果ガスの濃度標準及び同位体比標準の高精度化と国際的相互比較  
・温室効果ガス等観測の在り方に関する検討・検証及び取りまとめ

【特命随契/外注】

B. 特定非営利活動法人  
富士山測候所を活用する会  
2百万円

【業務内容】  
旧富士山測候所で温室効果ガス及び関連物質の観測

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:百万円)

費目・用途 (「資金の流れ」 においてブロック ごとに最大の 金額が支出され ている者につい て記載する。費 目と用途の双方 で実情が分かる ように記載)	A.(独)国立環境研究所			B.特定非営利活動法人 富士山測候所を活用する会		
	費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
	人件費	高度技能専門員、フェロー	15	雑役務費	旧富士山測候所で温室効果ガス及び関連物質の観測	2
	備品費		3			
	消耗品		10			
	雑役務費	CO2測定器及び電源配線交換整備作業	1			
	外注費	特定非営利活動法人富士山測候所を活用する会	2			
	その他	印刷製本費、通信運搬費、一般管理費、消費税	8			
計		39	計		2	

### 支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(独)国立環境研究所	・温室効果ガスの濃度標準及び同位体比標準の高精度化と国際的相互比較 ・温室効果ガス等観測の在り方に関する検討・検証及び取りまとめ	39	1	99%

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	特定非営利活動法人 富士山測候所を活用する会	旧富士山測候所で温室効果ガス及び関連物質の観測	2	随意契約	—